部　　歌

古　林　先　生　作詞

一、まや六甲に抱かれて
　ここ六甲台の水清し
　ちぬの浦和をみおろして
　シブキをあげる健男児

二、フリー　ブレスト　バタフライ
　バック　リレー　ポロまでも
　凌泳健児の意気高し
　いざや競わん腕を撫し

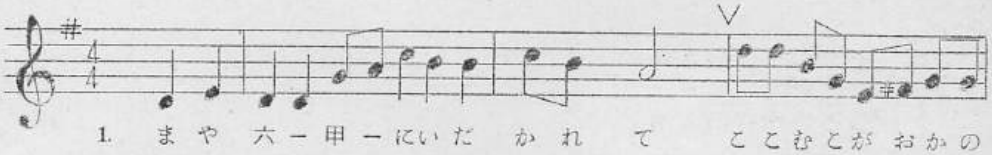
三、ああなつかしの水泳部
　六甲台のプール辺に
　月見の宴で泳ぎやめ
　くる夏まっていきりたつ

583

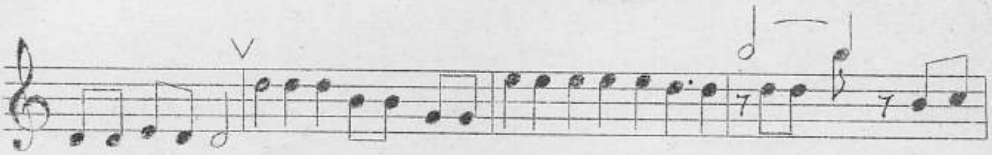
水　泳　部　歌

作詞　古林喜樂

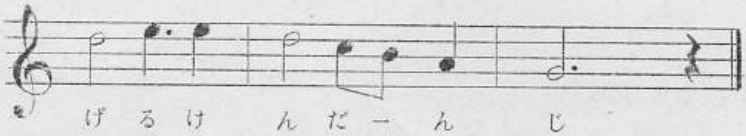
作曲　山田貴彦



1. まや　六ー甲ーにいだ　かれ　て　　ここむとがおかの
2. フリ　ープレストバタ　フラ　イ　　バックーリレーー
3. ああ　なつかしのすい　えい　ぶ　　ろっこうだいのー



みずきよし　ちぬのうら　わを　みおろしてーし　ぶきを　あー
ポロまでも　りようえい　けん　じのいきたかし　いざや　きそ
プールべに　つきみのえ　んで　ーおよぎやめく　るなつ　まー



げるけ　んだーん　じ
わんう　でをーぶ　し
ってい　きいりた　つ

浄水装置募金収支報告

石井義章

四十二年九月に開始致しました本募金は、会員各位の格別の御協力により、初期の目標を達成し、延醵出者百二十名、醵金総額百十二万円＋現役譲渡金八万円計百二十万円に達しました。本日ここに収支御報告にあたり、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、浄化タンクの建設費は八十六万九千円を要しましたが、大学育友会より十五万円の補助を頂く事が出来ましたので、実支出は七十一万九千円に止まりました。募金にかかる諸経費（印刷費・交通費・通信費）五九、二四〇円、祝賀会費用二七、五五〇円、記念品費六〇、〇〇〇円、その他雑費二、五一〇円を要しましたので支出合計八六八、二〇〇円となり、募金総額百二十万円より差引三三一、八〇〇円の残額を生じました。

これは後泳会一般会計とは別勘定として積立て、将来、有意義に使用させて頂く予定です。

左に募金醵出者一覧表並に、収支報告記載致しますから御高覧願います。

浄水装置募金応募者一覧表

	氏名	回数	金額		氏名	回数	金額
1	古林喜楽	高19	50,000	11	太田清	高26	15,000
2	山田幸男	部長	10,000	12	小山賢之助	学1	60,000
3	白山源三郎	高15	10,000	13	草野嘉一	〃	10,000
4	三井栄三郎	〃19	6,000	14	山田常雄	〃	10,000
5	攀益繁次郎	〃〃	15,000	15	熊野利夫	〃2	15,000
6	坂本豊一	〃22	10,000	16	板野亀八郎	〃3	12,000
7	田川亮一	〃〃	3,000	17	宮本伯夫	〃	15,000
8	作田耕三	〃〃	30,000	18	池谷俊一	〃4	6,000
9	北条貞夫	〃25	12,000	19	野村弘	〃5	15,000
10	樟木実就	〃〃	10,000	20	小池三郎	〃	12,000

	氏　名	回数	金額		氏　名	回数	金額
21	山村宮男	学 6	12,000	49	中川正敏	学20	12,000
22	村上秀造	〃 7	12,000	50	太田正典	〃21	3,000
23	伊藤英二	〃	6,000	51	石井義章	〃22	12,000
24	太田正元	〃	6000	52	山本幸雄	〃	12,000
25	福永拓造	〃 8	6000	53	中井三郎	〃	12,000
26	大内義仁	〃	10,000	54	浜川広海	〃	9,000
27	山川初雄	〃	3,000	55	今井政一	専 1	9,000
28	中村市治	〃 9	20,000	56	衣川昭	〃	12,000
29	鈴木啓介	〃10	3,0000	57	今枝一	新 1	10,000
30	森美夫	〃	6,000	58	中島功	〃	3,000
31	山口宗樹	〃	12,000	59	田淵五郎	〃 3	8,500
32	前田寿	〃11	8,500	60	榊原修造	〃	12,000
33	平井洋	〃	6,000	61	溝口注	〃	10,000
34	柏木勝三	〃	6,000	62	佐藤一夫	〃	15,000
35	稲垣懋	〃	6,000	63	堂本直正	〃	3,000
36	熊野泰巳	〃12	6,000	64	増井幸蔵	〃	6,000
37	稲木俊男	〃	6,000	65	富岡道雄	〃 4	6,000
38	岡本忠男	〃	10,000	66	松田司郎	〃 5	6,000
39	荻野茂希	〃13	12,000	67	山口仁郎	〃	12,000
40	湯山正三	〃14	6,000	68	前田弘善	〃	3,000
41	三宅林	〃16	12,000	69	岡田昌三	〃	10,000
42	石井喬	〃	3,000	70	石本茂樹	〃 6	9,000
43	武内信一郎	〃17	6,000	71	細田忠雄	〃	9,000
44	岡庄一郎	〃	12,000	72	岡見晴見	〃	3,000
45	小西信次	〃18	12,000	73	岡村司	〃 7	9,000
46	牛島修	〃19	3,000	74	北村英樹	〃	9,000
47	中崎日出男	〃	6,000	75	栄川泰介	〃	9,000
48	鈴木富夫	〃20	12,000	76	谷[illegible]和郎	〃	3,000

	氏　名	回数	金額		氏　名	回数	金額
77	永野一彦	新 8	9,000	99	平岡昭朗	新11	3,000
78	村岡英樹	〃	10,000	100	窪田信雄	〃	2,500
79	太田譲	〃	9,000	101	夏見昭次	〃	6,000
80	黒田英雄	〃	6,000	102	藤岡治男	〃	3,000
81	奥野吉郎	〃	3,000	103	林　荘八郎	〃	6,000
82	杉岡孝一	〃	3,000	104	武政英幸	〃12	10,000
83	原　謙三	〃	9,000	105	鈴木正彌	〃	9,000
84	宇賀史郎	〃	9,000	106	清水晴夫	〃	6,000
85	上村久治	〃	3,000	107	山本忠比古	〃	6,000
86	酒井孝栄	〃 9	10,000	108	堺　荘祐	〃	6,000
87	野田浩志	〃	9,000	109	安茂　弘	〃	6,000
88	井上隆史	〃10	6,000	110	滝沢章三	〃	6,000
89	萩原　武	〃	7,500	111	前田和秀	〃13	10,000
90	竹元忠彬	〃	3,000	112	横田興二	〃	6,000
91	岡田重義	〃	6,000	113	手嶋忠之	〃14	6,000
92	高岡保宏	〃	6,000	114	樋口周平	〃	10,000
93	山田貴彦	〃	3,000	115	木下雅浩	〃	10,000
94	米田啓祐	〃	6,000	116	中畑勝明	〃	10,000
95	浅間啓介	〃	6,000	117	日野　康	〃	9,000
96	丸山卓也	〃11	6,000	118	宮部高博	〃15	10,000
97	芦井康之	〃	9,000	119	久保祐四郎	〃	10,000
98	鈴木剛弘	〃	6,000	120	阿部洋三	〃	10,000

合　計　1,120,000.—

現役部員調達金　80,000

合　計　1,200,000

支出明細

浄化タンク一式建設費	七一九、〇〇〇
印刷費	二六、九〇〇
記念品費（カツパメダル）	六〇、〇〇〇
祝賀会費用	二七、五五〇
通信費（切手、はがき、電話）	一一、〇四〇
交通費	二一、三〇〇
雑費	二、五一〇
合計	八六八、二〇〇
差引残額	三三一、八〇〇

22,000- GB
80,000- 現役

浄水装置の募金経過と
凌泳会の新しい運営について

幹事長　岡　本　忠　男

凌泳会員の皆様に浄水装置の募金に御協力下さいました事を幹事長として厚く御礼申し上げます。

この浄水装置の設置については、まず神戸大学当局に全額負担を正式に申し入れすべきであるという方針のもとに、私と石井幹事二名が学生課と交渉を開始したのでありますが、文部省の方針が浄水装置の予算にたいしては、なかなかしぶい状況で獲得しにくい現状であることと、又予算がとれても凌泳会の方も御負担をお願いせねば全額学校側が設備する事は現状として困難であるということが判明しました。そこで一ケ月後福岡県議員として県の用件で東京に出張したので、余暇を利用して某衆議院議員の紹介をうけて文部省に予算獲得に努力しました。幸い文部省も金額が少額であり、学校体育にも関係あり、且つ凌泳会も若干の負担をするので了解にとぎつけました。帰途再び学生課をおとずれこの結果を報告したところ、文部省には神戸大学施設には多額の予算を要求し、又文部省も努力していただいているので、浄水装置については学校側で別途に負担するので、半分程度凌泳会が負担してくれとのことでした。そこで石井幹事と相談し、ついで古林会長に事情申し上げ募金にのりだした次方です。会員の御理解と御協力があった結果、学校側と早く交渉が終りましたので目標が達成されたのです誠に有難うございました。（いづれ詳細な会計報告があると思います。）

凌泳会の運営について組織を充実する意味からも私もふくめて役員の交替と若い幹事の増員をはかることが必要と思います。京阪神在住で移動しない全員が役員になっていただく事が望ましいが、京阪神に勤務して転勤する可能性がある若い会員でも役員になっていただくとか、一年毎に指導員とでもいうか会員の中からお願いして任期中どしどし新風を入れて部員の指導と会の充実に努力していただけような方法もあってよいのではないかと思っています。

プールは水泳部員だけのみ使用すべきでなく一般学生の体育向上のためにも利用さすべきであると思います。年一度学生の水泳大会を開くとか、泳げない学生のために水泳指導会を学校側と相談して実行するよう努力すべきではないかと思います。施設の充実とか部員勧誘にも役く立つと思います。四十四年度の総会で審議していただく事になると思いますが、御意見があればどしどし水泳部までに申し述べて下さいませ。

プールが生れ替った機会に

萩原　武
岡田重義

我々のかっての六甲台プールは今はない。飛込台が消え、代りに浄化設備の付いた新しいプールに生れ替っている。

プールが新しくなるのと相前後して凌泳会の性格についての考え方にも変化の徴しが見えて来たと言えそうである。昨シーズンはこと四～六年の間に出た若いOBが顔を会わせる機会が多くあったが、そんな時によく出た話が、これまで実質的には現役水泳部に対する経済的なスポンサー並びに相談役でしかなかった凌泳会をもっと別な方向、即ちOBの親睦団体としての性格をもっと積極的に持たせてもいいのではないかという意見であった。これは以前から古林先生も京大の例を引き合いに出されてよく話されていた事であるが、我々の場合は一昨年発足したボロのコーベクラブが昨年かなり順調な活動を為し得たことから急に話が具体化して来たものと言えよう。ゴルフやスキーは言うまでもなく、スキンダイビング、水上スキーにも首をつっ込んでおられる方々もあると聞き元々水とは切っても切れない縁の我々のことであるから話がどんどんはずんだ次第である。

こんな具合に局部的に動き出している会員相互の親睦活動をもう少し、六甲台プールと結びつけて発展させたらというのが現段階で出て来ている話の骨子の様である。

ここで忘れてならないのは遠隔地に居られる先輩、極めて多忙でいらっしゃる先輩、その他色々な事情で会費だけ載きっぱなしになってしまう方々についてである。

現に今度のプール改修費についても恐らく、このプールを利用する機会には恵まれないだろうと判っていて多額の御寄附を載いた先輩諸氏に対しては、我々在京飯神の者は十分心せねばならないと思う。

いずれにしましても未熟な私共のことで、色々御批判頂かねばならない点が多いと思いますので会員諸氏の御意見、御批判を御待ちしております。

申し遅れましたが、此度新しく新制十回の岡田と萩原が会運営の御手伝いをさせて頂くことになりました。よろしく御願い致します。

先輩からの便り

浄化装置の完備に思う

古林喜樂

いまの六甲台のプールができたときには、東の神宮プール、西の神大プールと、並び称せられるほどの立派なタイル張りで、高壁とスプリング跳込みの装置も完備し、水は大学専用の水源地から、つめたかったけれども清浄な六甲の山水をたたえ、周辺には学舎以外には家一軒とてもなく、六甲ハイツは昼なお暗き密林であった。それまでの上信井のプールが、あまりにも貧弱であっただけに、プール開きのお祝いのときの喜びは、たとえようがなく、今だに忘れがたいものがある。

それから何十年ぶりか、昨春、浄化装置が完成し、荒れに荒れ果てたプールの改装もなり、披露の祝典が備されたとき、ゆくりなくも私は、昔のプール開きのことどもを思いおこしていた。当日先約の会合の時間を無理算段して、一番にはせ参じた私の気持を察してほしい。

思えば今まで、水のきれいであったのは、せいぜい一・二週間しまいにはコール・コーヒのような濁水のなかで、選手たちは、いぢらしくも黙々として猛練習をしていたのであった。よくぞ今まで辛棒してくれたものだと、つくづく思った次第である。

私はいまだに夏になると、泳ぎまわっているので、水泳部の諸君に誘われると、ついそのうちには泳ぎに来るよと言いながら、あの濁水ではと、敬遠してしまっていた。そしてきれいな海やら、よそのきれいなプールで泳ぎながら、水泳部の諸君に、すまんすまんと、いささかは良心の苛責もおぼえたものであった。しかしこの私のこのようなつらい思いも、遂に解消した。全くありがたい次第である。

当日新装備のプールのおはらいに、なんとこはいかに、よりによって私をして、ビールを水面にばらまく行事をば、私にさしてくれた。水泳とビール！　心にくいまでの行きとどいた石井君の心づかいに、命ぜられるままに、存分にプールの紺碧の水面にビールをまきちらしながら、私は心の中で、嬉し涙をこぼしていたのであった。この喜びは　底筆舌のつくすところではない。

さて、私は、こうなった以上は、又も厚顔しい次第ではあるけれども、私の悲願・念願である、三百六十五日、一年中泳げるプールの実現に、余生をかけて、微力を傾け邁進したいものと思っている。当日ひそかに私は、意を決するもののあったことを、ここに披露しておく。

私は学長を六年間もつとめたので、およそ長のつく仕事には、

まっ平御免の思いなのであるが、ただついよろめきそうになるのは、一年中泳げるプールをつくるから、という条件づきの話しをもってこられるときである。この話しには私は全く弱い。私も既に古来稀なる事に接近しつつあるのであるが、誰か私のこの切ない悲願をば、かなえてくれないものであろうか。そして私のよろめきを食いとめてくれないものであろうか。

それはそれとして、今回の浄化装置の資金カンパに対して、御協力下された凌泳会の各位に紙上をかりて、ここに厚く御礼申しあげます。

一月元旦

プール改修並に浄化タンク寄贈式

石井義章

六甲台開学以来三十余年、幾多の凌泳人をはぐくんだプールも、さすが寄る年波には勝てず、次第に老朽化し、最近では、ひび割れ、傾斜、水もれがはなはだしくなって来ました。ここに、於て大学当局も遂にこれが改修を決意し、本年三月いよいよその工事に着手されました。

先づ、小型ブルドーザーを一台、プールにほり込んで、中央の深い部分を埋立て、底を平面とし、次に周囲のオーバーフローをけずり取って、循環用の給排水管が埋込まれました。更にプール南サイドにあった飛込台も取はらはれ、又スタート台その他も一部手直しが行はれました。

浄化タンク小屋は北東隅に新設され、この中に凌泳会寄贈になるタンクが設置されました。

さて　この改修プール開き祝賀会と浄化タンク寄贈式が、五月二十五日プールサイドに於て盛大に催されました。

当日は、大学側より八木学長始め六甲台三学部長並に改修に御尽力頂きました。関係事務官の方々多数の御臨席を得、又凌泳会側からは古林会長、山田水泳部長を始め、多数のO・B、現役部員の出席を頂きました。殊に、藤井正太郎先生が、御老体をおして、御参列頂きました事は、吾が水泳部に対する、いつに変らぬあたたかいお心ざしと、一同感激した次第です。

式は先づ古林会長より八木学長に対し、浄化タンク装置一式寄贈の目録が贈呈され、これに対し、学長より、凌泳会宛、感謝状が渡されました。

続いて、プールのお清めと、水泳部員一同の健康と発展を祈って、古林会長にビールを一本プールの水にまき入れて頂き入魂式、と致しました。

次はいよいよプール開き。スタート台に張られた紅白のテープを、学長、会長、お二人で切って落されると、押せずして万雷の拍手がわき起りました。

学長祝辞、会長挨拶の後、現役部員による祝賀式泳に移りました。水はあくまで青く、あざやかにコースラインをうかび上らせ、その面にうつる新緑の影をかき分けて、フリー、ブレスト、バック、バタフライの四人の泳者が、きれいにそろって五十米を泳ぎ切りました。

最後に古林会長の発声で、神戸大学水泳部と凌泳会の発展を祈って乾杯と万才三唱のうちに無事式次第を終了致しました。

（石井　記）

以　上

感　謝　状

神戸大学凌泳会　殿

貴会は、このたび浄水用濾過タンクを寄贈され六甲台プールの整備に多大の貢献をいたされました。

本日プール開きにあたり深く感謝の意を表します。

昭和四十三年五月二十五日

神戸大学長　八　木　　弘

凌　泳　会　御　中

学20　鈴　木　富　夫

カッパのメダル受取りました。当時を想い出し懐しく眺めて居ます。

カッパ誕生記の末項に山口先輩が昭和二十年五月二九日別府湾で殉職された旨記されて居りますが、丁度その時その別府湾で私は海軍候補生として航空母艦海鷹に乗組み、配置は噴進士（ロケット砲の指揮官）でしたが、本艦は連日連夜沖縄に突撃する特攻機（主として夜間雷撃）の標的艦となり猛訓練に明け暮れて居りました。

私の記憶でも約一ケ月の訓練中に数機の墜落機があり、何人かの搭乗員を海上から救助しましたが、計らずも山口先輩がその訓練中に殉死された事を知り感慨無量です。

今更めて忘れ勇士の御冥福を御祈申上げます。

激戦、敗戦、再建の三十年間、変らず逞しく、颯々とすべてを見つめて来たカッパの眼のために・・・・。

鈴　木　拝。

神戸大学
後泳会幹事殿

学14　湯山正三

私等の頃は、とても美しく、明るいプールで、よく洗濯をしたり、小屋で昼寝をしたり、全く暑くなると、天国でした。軍事教練の時の出欠は鉄砲の持出しで、小使がしらべていたので、よく小屋に銃をかくして、終った頃、知らぬ顔で格納しに行ったものです。

それからカッパは、お説の通り、山口八郎主将が提案され、宿題として出されたものです。結果、私も下宿で一晩ヒネクリ廻し、原稿を作って"八"（皆んなが8、8と愛称で呼んでいました）に見せたところ、これがいいと目だまと口もとを修正され、私のがパスした次第です。

8さん、守田、木村（十二回生）富中、古川（十三回）石川、神原、君塚、湯山（十四回）等、皆ボロが好きで、8さんの竹を割った様な気質、イガグリ頭の精悍な面積が今でも、浮んで来ます。全員にハッパをかけるタイプでは決してなく、プールサイドの楽しい雰囲気を大切にし、ボロに対してはファイトを強く要求されました。その頃の水泳部は関東の高等学校出身者が主流を占めていましたので、イキのいゝ江戸弁が、ニギヤカにプールサイドに聞えていましたし、ノートを取るもの、泳ぐ者、講義に出るもの、実にのびのびと時間をすごしたものです。タイムがどうの何千米、泳げとノルマがあったことは記憶になく、三二年頃でしたか、夏期合宿を高松でやられたのを見にゆきまして、そのキビシサに、ビックリした次第です。

私の頃は三時の講義終了から下宿の飯が六時、その三ー四時間を、プールサイドでわいわい暮すという、千成に楽しいものでした。こういう部生活もいゝものです。

一寸御参考まで。

六月十五日

湯山正三

接収下のプール

学22　石井義章

「このプールに許可
なく立入る者は
射殺されること
あるべし
第八軍司令官
アイケルバーガー中将」

私の現役時代のプールの思出は右の一文に代表される。白い板に黒い文字で書かれたこの立札が、プール入口の太い楠のそばに立っていた。

中では、カービン銃を肩に、ヘルメットをかぶったMPが一人プールサイドをぶらぶらと歩いていた。ウクレレを持った米人が、飛込台の上でジャズを歌っていた。プールは西側の一部をコンクリートで埋立て、浅くして、木の柵をし、白人の子供が数人、無邪気に水しぶきをあげていた。

吾々は、このプールの前に来ては、戦に敗れた現実をひしひしと感じると共に、何とも説明のつかないくやしさと、いきどおりを、かみしめていた。

私が大学予科に入学したのは、昭和二十年である。終戦を経て同年十一月授業が再開されたが、阪神御影駅山側にあった予科の校舎は、戦災で焼失した為、六甲台の学部の学舎へ通う事になった。水泳部には二十一年に入部した。この時一緒に浜川、中井、西岡、山本らも入部した。他に二・三人あったと思うが、二十七年学部卒業まで、共に泳いだのはこの四人である。この中で中学（旧制）で正式に競泳選手の経験のあったのは、浜川一人で、自分も含めて他の四人は、只水泳が好きと云うだけで、正式にはスタート仕方一つ知らなかった。吾々はシーズン初、プールの底にわずかに残った水で浜川から競泳の手ほどきを受けた。クロールのビートの打ち方、水のつかみ方、それも短距離と長距離で腕の突込の位置、ストロークの長さ、抜上げ方が違う事、等々、なる程泳ぎ方にもこういう理論があるのかと感心したものだ。

先にプールの底にわずかに残った水と書いたが、これには少々説明を要する。二十一年五月、占領軍より六甲台接収と云う大問題が持上った。花戸学長、始め全学あげての献身的な御努力により、全面的な接収はまぬがれたが、七月に入って、講堂、テニスコートと共にプールが接収される事に決定した。私が在学中ホームプールとして自由に泳げたのはこの二十一年シーズン初めのわずかな期間であった。プールには、雨水か何かの残りだろう。飛込用に深くなった中央部分（今度の改造で埋立てられた）幅にして約十米深さ約一米の水がたまっていた。両側は斜面だから勿論ターンなど出来ないが、それでも戦場競技としてではない自由な水泳を楽しみ何度も往復した。シーズンインの七月初頭、前記の接収決定と共に、吾々は締出され、以来二十七年の接収解除まで、実に五年余にわたってプールは、六甲台の身代りとして占領軍に提供されたのである。今でもプールサイド北壁に残る

"No running on deck."　の文字とか、ペンキ塗りの部屋はこの時の名残りである。

この様にして、ホームプールを失った水泳部は、水を求めて神戸市内をさまよい歩いた。最初は大学西側の谷川の砂防ダムで泳いだが所詮水たまりの悲しさ、スタートもターンも出来ない。二十二年には京都の第三高等学校と対校戦をやったが八十一対五十

三で大敗を喫した。何とか正式のプールで練習したいと思っていた所、二十三年には松蔭女学校のプールが使はしてもらえる事になり、皆張切って、授業が終れば、青谷までかけつけたものである。当時この学校は日本の女子水泳界をリードする名門校で、背泳の可児選手、平泳の福井選手、飛込の木村選手等、全日本級の選手が居た。又、寺池とか白井とか云う可愛いお嬢さんが居て、予科の文化祭に招待したら、わざわざ山へ登って来た。山本など喜んでしまい　目尻を下げて一諸に写した写真が今でも残っている。とにかく敵衣破帽に象徴されるバンカラで女けのない予科生活に色どりをそえてくれた事は事実である。

この他魚崎小学校、灘高校、神戸商校、川崎病院プール、等々当時の神戸市内のプールはほとんど使はしてもらった。又上水道の貯水池も無理やりたのみ込んで泳いだ事もあるがきしさわりがあるといけないので詳しくは書けない。皆それぞれに思い出もあり、今となるとなつかしいが書き出せばきりがないのでこの辺で切上げる。

私が学部を卒業した二十七年の四月、接収は解除され、プールは再び吾々の年に帰って来た。本年はプールも大改造され、更にOBの努力で浄水装置も完備した。このプールが更に永く神戸大学水泳部をはぐくんでくれる事を、そして卒業後も青春の思出の場として、縁にかこまれたプールサイドがいつまでも健在である事を祈って筆をおく。

高15　白　山　源次郎

今年の夏は忙しくて泳ぎに欠席が多かったが、駅前に立派なプールが出来たので之から泳げると思います。

学25　槙　木　実　敬

菱泳会総会の御案内有難うございました。遺憾のため乍残念欠席致します。議事につきましては御出席会員の決定にお委せ致します。母校水泳部の本年度の御活躍を御祈り致します。

昭和四十三年五月十一日

藤沢市辻堂東海岸二―一〇―一三

学1　小　山　賢之助

前略　菱泳会総会通知入手しました。何とか都合をつけて参加したいと思いますが、どうもやりくりがつきませんので不得已欠席します。議事については石井参章君に一任致します。出席の皆様によろしくお伝え下さい。小生も寄る年波は争えずどんなにゆっくり泳でも百米以上を継続して泳ぐ事が出来ないのでがっかりして居ります。タイムをとるという様なことは縁なき衆生となりました。

横浜市港本区元石川町五九八五の一

専1　今井政一

拝復　失礼ばかり致して居ります内に今年もシーズンに入りました。

新しいプールで若い皆様の大いなる健斗をお祈り致して居ります。総会への御案内有難う御座居ますが失礼させて頂きますので決議は白紙委任させて頂きます。

一筆御連絡申し上げます。

山口県熊毛郡田布施町砂田

新11　平岡昭朗

大学卒業して五年経ちました。現在県立相生産業高校で体育教師をしています。クラブ活動は水泳部がなく野球部を受持っています。後二、三年もすればプールも出来るようすなので又昔を思いだして泳ぐつもりです。皆様によろしくお伝え下さい。

相生市千尋　相生産業高校

新7　谷和郎

毎夏、幾度かは終業後、工場近くのプール（今は撤去された堺大浜水族館あとにある）に親しみましたが、今度は残念乍ら一度もつかる機会がありませんでした。

八月中旬に第二子が生まれ（二人とも男）、いよいよもって男子たるものの責任が重くなってまいりました。

御参集の御先輩によろしくお伝え下さい。

新11　窪田信彦

拝啓　ごぶさたしております。五月も半ばになり本格的な練習に入っていることと思います。今年の御活躍を大いに期待しております。

さて、総会の御案内を戴きましたが、小生の会社はもうけが少いためか、バッチリ五時まで働くことになっており、若申し訳ありませんが欠席させて戴きます。御先生諸先輩御の方々によろしくお伝え下さい。総会の決定事項については幹事に一任致します。敬具

滋賀県栗太郡栗東町野尻　神水化学工業㈱

新14　手塚忠之

拝啓　六甲山の緑もますます濃くなり、今年も本格的な水泳シーズンに入った事だと思います。

ところで、小生この四月から京大の原子核工学の博士課程に行くようになりました。京都に来て、ほゞ一ケ月になりますが。ようやく京都にも慣れてきたようです。京都に御出の折には是非尋ねて来て下さい。水を離れてもう二年になりますがその間運動らしい運動もしないで体がナマッてしまいました。しかしやはり水にはまだまだ魅力があります。こんどのプール開きでは、小さい御い体をバチヤバチヤやらしてもらいますからよろしく。

では皆様今年もしっかり頑張って下さい。

草々

河童の歩み

雑感

E17 木内資雄

はやいもので、僕ももう卒業を間近かにひかえるようになりました。入学したのが、ついこの間のように思えます。四年間水泳部に籍をおいていましたが、その間を振り返ってみますと、楽しかった、おもしろかったというでき事より、つまらぬ事をした、恥かしい事をしたという気持ちの方が強いようです。ああやりたかった、こうしたかった等。具体的な例を引出すまでもなく、僕のまわりの皆さんなら、一つや二つならすぐ思い浮かべられるでしょう。少々オーバーな表現をすれば、「命ながければ恥多し」の如く、人生とは、恥の連続のようなものとも考えられそうです。

こんな状態ですから、今になって、水泳部に残る諸君に送る言葉などなかなか見つかりそうもない。僕なりに感じたこと、考えたこと、何かの参考にでもなればと思ってみます。

水泳部に四年間居て、最も多く聞いた文句を二つあげると、「練習にでて来い。」と「部としてまとまりがない。」だと思います。（ことわっときますが、僕はなにも「練習にはでなくてもよい。」「まとまりなんて不必要。」だと考えているわけではありませんよ。むしろ、両方必要だと思っています。）なぜこのような文句が毎年々々くり返され、なおかつ実行されないのでしょうか。水泳部の主将（だけに限ったことではないでしょうが）にとっては、頭の痛い問題だと思います。

練習をサボる者は、部をやめさせ、まとまりを乱す者は退部させるという方法はどうでしょうか。一見それでよさそうにも思えます。しかし、この方法が、実行されることは、ありませんでした。また、将来でもなかなか実行されないでしょう。なぜなら、これでは、問題の本質的な解決とはなり得ないからでしょう。

「練習をサボる。」「まとまりがない。」という現象の裏には、部員各自の水泳部活動に対する考え方、価値感に差が、違いがあるからでしょう。その差とか違いというものは、もとをただせば人生観の相異でしょう。人は論理には屈することはあっても、その行動では屈しない、ということになれば、この問題の解決は非常に困難になります。

試合に勝つための練習をすれば、試合の勝ち負けに、関係のない者はおもしろくなく、部としてのまとまりが欠けるのも無理からぬこととも思われます。不平、不満のある連中を退部させても、水泳部は、プールは一部の者の私有物ではない。みんなの共有物

退部の問題

だという反論もでてくるでしょう。

まとめると、問題は、水泳部活動に対する姿勢の多様性を認めるか否かの選択の問題となると思います。

ああ、しんど

M4 鈴木俊彦

困ったなあ。どうしょう。何書いたらええねんやろ。ボク原稿なんか書くのん、嫌いやねん。何んで一夜泳」なんて作るねんやろ。先輩に僕らがどんな事考えてんのんか、聞いてもらうためやろか。それやったら、何も「夜泳」なんか作らんでも、先輩がプールへ来てくれはったら、わかるのになあ。なんぼなんでも、一年に一回ぐらいやったら、プールへ来るひまあるやろからなあ。戦績の報告のためかな。

せやけどこれも、試合見に来てくれはったら、わかるこっちゃし、もしこられへんかっても総会の時に報告するしなあ。ほんだらなんで一体こんなもん、作るねんやろ。一回もプールへも来やんと、総会にも出席せえへんような先輩のために、作るねんやろか。かなわんわ。毎年これで一苦労するねん。編集係の者も、もうちょっと考えてくれたら、ええのになあ。例えばやで、何か一つのテーマを決めてやで、皆がそれについて、原稿用紙一、二枚にまとめる、ゆうふうにしてくれたら、書く方も簡単やし、読む方も皆の考え方の違いが、ようわかって、おもしろい思うけどなあ。まあ、ぼやいててもしゃあないわ。何か書かんならんねんからな。「水泳部生活をふり返って」なんていうのんも、ありふれてる感じやし、恋についてなんてゆうても、わけわからんしなあ。朝起きてから、寝るまでの事でも書こか。ああ、せやせや。去年やったか、そんなん書いてた先輩いてたなあ。木村が、えらいおもしろがっとったなあ。皆、何書いてんねんやろなあ。去年は、何書いてんやったかなあ。能岡、書きよったかなあ。あいつも迷とるやろな。あ、もう二時十分や。えらいこっちゃ。明日は、九時に起きやんならん。二時半に寝たとしても、六時間半しか睡時間無いなあ。なんぞ書く事ないやろか。僕の趣味の事でも書こか。僕の趣味ゆうたら、ええっと……あかんか。何にもあれへん。これもあかん。もうええわ。やんぴ。また明日や。井上に、締切もうちょっと延してもらお。せやけど、あいつおこりよるやろなあ。

転換期

T17 熊岡 禄二

私は今水泳部に在籍した四年間をふりかえってみました。この四年間は大学というものが、根本から考え直されていく過程にあったのではないかと思います。我々が入学した時には、大した学園紛争というものもなく、学生運動といったものも、一般の大部分の学生は関心を示さなかったものです。ところが今では全国の大学が大揺れに揺れていて、今日神戸大学に於ても闘争が行われております。

このようなことを考えてみると私が四年間すごして来た水泳部も大きく変ってきたのではないかと思います。

運動をするために大学にやって来た人達を集めたクラブを持つような一部の私立大学を除き、現在の大学の運動部には色々な型があります。昔よくあったような勉学とクラブ活動とが本末転倒しているようなもの、今でも高校などでよくある純情型タイプのもの、又いわゆる同好会の様なものなどがあります。

そして、関西にある国公立の大学を見てみると、同好会型への移項の傾向に気が付きます。

京大、阪大、市大などにそういった傾向が見られ、又神大の水泳部にもそう言ったものが見られます。

たとえばその例を練習時間にとって見ますと、私が一年の時には、毎日一時半より六時ごろまであり、合宿も十日近い期間のものが一年間に四、五回ありました。今では練習時間は三時からとなり、合宿も一週間たらずのものが年に二回といった具合です。

そういったことが善いことか悪いことかはわかりませんが、国公立の大学には、特に、そういったことが、やむを得ないことであると私は思います。その原因にさず社会環境の変化といったものがあげられます。

昔のように娯楽が少なかったような時代ではなく、昭和元録と言われる今日では、水泳以外に色々と遊ぶものが私達の前にぶら下がっています。

又、授業のカリキュラムが特に理工系の専門課程の学生にはきっしりと詰っており、週に三回も練習に顔を出すのがやっとというようになっており、これでは、クラブとして満足のいく練習は出来ません。

それともう一つ大きな原因となっているのは現代の若者が皆大なり小なり持っている青年時代特有の焦躁感といったものがあります。このことについては昔にもあったのだろうと思いますが、ただ違っている点は、昔の学生はそのような焦躁感があったが故に、それらを燃え尽くすべくクラブ活動に励み、今のものはそれ故に、運動ばかりしていてもよいのだろうと考えるのではないか

と思います。

現在の一年生部員はわずか二名、初めはもっと沢山いたのですが、今はこれだけです。来シーズンも有力な新人が入るか、又大勢の人達が入るかどうかわかりません。ただ私が言えることは、このままではいけない、なんとかクラブの新しい方向を見つけてもらいたい、それが将来の神大水泳部というものを、飛躍させるものだと思います。

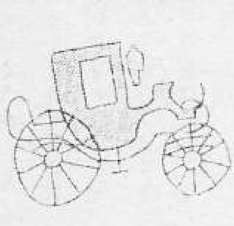
〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

私が神戸大学の水泳部にいて、一つの夢がありました。それをここに述べ、出来れば後輩の方達にやっていただきたいと思います。

私達人間というものは、社会から何らかの恩恵を受けていますそしてそれを又社会に還元していくのが人間の義務だと思います。その一つの例が、大学教育だと思います。我々は大学より教育を受けます。それを受ける為には、父母兄弟の協力とか他の一般社会からの援助がなければ到底そのような事は出来ません。そのような恩恵を我々は社会に出て働らくということで、還元していると思います。そのようなことを考えて見ると、私達水泳部の者たちも何らかの還元をしなければならないと思います。たとえそれがどんな些細な事であっても是非しなければならないと思います。

二・三の例をあげるならば、現在小供達で泳げないのが多いのであるから、近所の子供達だけでも集めて水泳教室を開いたり又、今の小・中学生の教師達があまり泳げるものがいないという現状だから、教育学部対称の水泳講習会などを催せばよいのではないかと思う。そのようなことをしている大学をあまり他で聞かないが、クラブの一つの運動方針として、あって然るべきだと思います。又、このような運動を神戸大が卒先して行なうことにより、他大学にも波及するようになればなおよいことだと思います。

岡本氏の意見にも通ずる



水泳部を回顧して

E17前　田　信　雄

ふと考えてみて私は水泳部に対していささかの貢献も足跡も残さなかったように思える。水泳部という船の中でただ戯れて落ちそうになっただけで、カジらしきものを取った事がなかったし、ロをこぐような事もなかったように思える。反省してみてそのような自戒の念に駆られる私である。

しかし月並みではあるがこの四年間曲りなりにも船に乗っていて数多くの先輩、同輩、後輩にめぐり会えて満足もし誇りにも思っている。めぐまれた多くの交友から教えられればなっしの四年間でもあった。それにつけてもキャプテンだった宮部さんに言われたたった一言の言葉が何かにつけて思い出される。

「お前は自己防衛がうまいな。」この一言は私を全く狼狽させたのである。これほど面と向って自分の核心をついて言われた言葉は今思い出しても他にはなかったように思う。

その他いろんな事が思い出される。

入部してまもない頃のぎこちない自分、やめたがっていた頃の自分、いろんな理屈をつけたがっていた自分．．．。

水泳部生活の思い出がそのまま大学生活の思い出になる。どれもこれも得がたい経験、忘れがたい思い出である。思い出すらちにほろにがくなる。やめよう。

さて、後輩諸君に言っておきたいと思う事はもう少しいろいろな議論がほしいという事である。どんな事でもいいから積極的に、真剣になったり、あるいは又はザックバランに話し合って欲しい。そうすれば一段と部員相互の連帯感が深まると思う。多少初めはギコチなさがあっても慣れてくれば自ずと自己を自覚し相互理解にも役立つと思うのである。本を読むのもけっこう。しかしそれは一人でも出来る。時々は鏡にも写す必要がある。幸い諸君には、水泳部の中に多くの先輩、後輩がいるではないか。

プール

井　上　与志男

それは或る夏の日の午後でした。空は青く熱く晴れ渡り、太陽はその熱と光をこの地上にたたきつけんばかりに照り輝いていました。そのプールは清く涼しそうな水を満々とたたえていました。プールサイドには緑の葉を茂らせた木々が立ち並び、その木の間からは間断なくセミの鳴く声が聞えていました。人影らしきものは見えず、静かな静かな午後でした。と、一人の老人がゆっくりと坂道を登って来ました。かなり歩いたのでしょうか立ちどまっ

て額に顔に流れる汗を白いハンカチでぬぐい又歩き出しました。その額は老いた体つきや歩き方にも似ず、真夏の太陽に映えて輝いてきえいました。老人はゆっくりとしかし決っしてよろめきもせずその坂を登って行きました。一匹の黒い大きな蝶が老人の目の前を飛んで行きました。老人は立ちどまってその蝶を目で追いました。蝶は右に左にそして上に下に飛びながら、坂の下に咲いているあじさいの花にとまりました。それでも羽を動かすことはやめず、花の間をあちらこちら飛び移っています。まるで子供が水遊びではしゃぎまわっているように。老人はそれを見て目を細めてひとりうなづき又坂道を登りはじめました。坂はもういくらもありませんでした。老人は坂道を登りつめると左を向いて、まっすぐプールの方へ歩いて行きました。ゆっくりと落ち着いた足どりで、老人は開いている門を通ってプールサイドに立ちました。美しい水を満々とたたえているプールを、きらきらと輝く眼でじっと見つめ、そして老人はひとりつぶやきました。「わしのプールだ。」

空はますます青く晴れ渡り、太陽はいつまでも熱く照り輝いていました。セミが絶え間なく鳴き続けていました。静かな静かな夏の日の午後でした。

—完—

今年一年をふりかえって

主将　（E18）玉置　明

今年もシーズンが終ってしまった。やはり主将として一年振りかえってみると、やり残したことが数多く心残りである。今年は念願の全国々立部団体出場を果たし、旧三商大でも競泳の部門では優勝することができた。しかし、国公立部にしても充分満足のゆく勝ち方ではなかったし、旧三商大部にしても目標は完全優勝であったのだ。又、来シーズンも同じ目標に向わねばならない。だがそのためには我が水泳部に残っている"ひよわさ"を克服せねばなるまい。俺の単純な考えだが、水泳における練習方法において絶対的なものはないと思っている。たとえ練習方法が多少違っても泳ぐことに変りはないのだから、各人が必死に練習しさえすればそれなりの効果はあがりクラブとしても強くなる筈である。本当のクラブの目的というのは、各個人が精神的な意味において"強く"泳ぐことができるということにある。そこから何が生まれるか、それは生きることの充実感である。それと共に生まれる部員間の友情と連帯、これは俺個人に限定して言わせてもらえばこれこそ俺の水泳部生活の全てである。俺も学生生活はあと一年余を残すだけとなってしまったが、残るあと一年の間に俺は今ま

での自己最高記録を書きかえ、またそれより以上に大事なことなのだが、水泳部の為に全力を尽くすつもりである。

それから六甲台のプールに先輩諸兄の御尽力により、今年浄化装置がつき、私が経験する限りここ二年間のプールの水とは段違いで、非常に泳ぎやすかったという身で味わった実感を伝え、共に先輩諸兄に深く感謝いたします。

無題

木村　多加緒

ぼくはコンパが嫌いである。食ったり飲んだりすることなど全く楽しいとは思わない。少なくとも今までやってきたコンパは飲んで、食って、それだけだ。ぼくは食うことにも、飲むことにも楽しみを感じないわけであるから、ただそれだけしかないコンパに対しても全く魅力を感じない。むしろ出席するのは、時間の無駄だと思うし苦痛でもある。なぜそんな事に金まで出さねばならないのかと思うこともある。練習についても言いたいことがある。「わざわざ」一時間半もかけて学校まで行っても半分遊びの様な練習しかしなかった時は全くいやになる。練習はやはり苦しければ苦しいほどやりがいがある。ぼくらはそれぞれ貴重な時間を割いて練習にでかけるのだから、それだけ充実した練習内容であってほしいと思う。みんなで一緒になって遊ぶ時もあってよいと思う。ただその時は強制でなくて、完全な自由参加にしてもらいたいなあと思うのである。強い練習で自分の体を痛めつけたい。時にはその事に快感を覚えることもある。そうすることによって少しでも強くなりたい。肉体的にも精神的にも。それがぼくの水泳部から得たいと思っている最大の、唯一と言ってもよいものである。人との触れあいも、その結果として生まれて来たら、それもそれで喜こぶべき事だと思う。練習に少しも参加せず、コンパだけ出席というのでは全くナンセンスだと思う。どうして、何のためのコンパなのか。五人くらいで練習。二十人くらいでコンパ。？？？？

雑感

B18　井上　史朗

たった今大橋君から電話があり「何か書いてくれ」というので「題は？」と聞くと「何んでもいい」との返事だったのでただ思うままにペンを走らそう。

昨日からバーディークラブに泊まっていて、ふと玉置君の本棚から古林喜楽教授の「教授・学長・学生」をひろい読みさせてもらった。そして思った事、①なかなかためになるところもある。

②昔の教授は今より給料がよかったのではないか。

先日古林先生の講演を聞いたが、自分なりに理解したけれど、人によってそれぞれの評価をしていた。これから経営学をやろうと考える者、少しかじった者、熱中している者、専門家とそれぞれの評価をしている。そして思ったよ。「あゝ人間ってこんなものか」と。

講義を聞いて、本を読んでわからないのは自分の能力不足であることが多い。名著ほど意味する内容は多いだろうが、我々はそれに気ずかず、読んでいることが多い。そして後であやまった理論を作ってしまうものだ。少なくとも大学教授は一さつの書物をだすのに何年もかかっている。いや一行の文を作るにも何年もかかっていることが多いのだ。殊ころんでわかる本は大学の本ではない。電車の中で読む本である。何回読んでも理解できない本がある。大学の本とはそんなものであろう。しかし大学教授は勉強はよくやっていると痛感する。私もその一人だけど最近の若い者には根情がない。昔でも同じと思うが）とよくいわれる。だいたい地位の高い者（政治家は別）は若い時に努力しているよ。努力してもかならずしもうかばれないのがこの世の常だけれども、そういう人の伝記を読むとおもしろいと思う。私もそのうちサラリーマンになる予定だけど、いわゆるホワイトカラーは最近人数が多くて出世のチャンスが少ない、で会社にはいったらのんべんだらりと生活しないで、勉強して早く重役になるのが夢である。マイホーム主義は大学時代だけで社会にでたら、重役になるつもりである。

だいたい経営者は、平サラリーマンよりよっぽど働いているよ九時に始まって五時に帰れるのは平サラリーマンだけだよ。仕事をきほって、レジャーに追われているのは中小企業の経営者だよ。平サラリーマンは金がない。大企業のサラリーマンはいそがしい。教授もいそがしい。一日中研究室にとじこもっている。西洋では、人と会う前に何時から何時までと、はっきり電話で約束するらしい。そしてその時間は一分も遅わないらしい。そのようにいそがしい教授をひっぱりだして何時間も大勢団交させるのは非常識である。あらかじめ何時から何時までと決めておいたらいい。

学生大会でも同じ、深夜何時までも続けられたら生理的にもいやになる。その点パンフレット・マルキスト（北野教授による）は手におえない。自分の理論に固執して他の理論をうけいれる余地が頭にはない。それでいて自分はいわゆる一般学生より立派なことをしていると思っている。彼等は自分達だけが偉いと思っている。ただ信じている宗教家と同じである。それでいて彼等は責任感がない。悪い事をしてもそれは他人のせいにする。人をきずつけても平気である。毛沢東を読んでいたら「教条主義者」という言葉がでてきた。彼等のようなのをいうのであろう。

そもそも大学とは勉強するところであると思う。勉強は少なくとも大学でする。勉強は永遠に終わるものではない。勉強とは、

少なくとも「大学」と名のついたところでの勉強とは、「真理や法則の無限な追求である。　気することではない」と思う。スポーツも記録の無限の向上であると思う。その点両者は対立する。本当にスポーツをやろうと思えば　少なくとも神大ではできない。本当に勉強をしようと思えば、スポーツをする時間は少なくなるだろう。その点私は中途半ばである。それでいいと思う。ただその時に全精力を集中すればいいと思う。

"Where there is a will, there is a way." である。その点反省したいと思う。学園生活もあと一年、長い目でみると早いものであるが、勉学にスポーツに、恋愛に、いい思い出を作りたいものである。

一九六八年十二月二八日

水泳部経験二年

T　一九一七八　小林育夫

僕ら家族から離れて個人的な自分だけの生活を営もうとしている人間にとって、家族からの離脱は、解放感とともに孤独感を感じるに違いない。ではより少数の集団で親密感のます集団に参加するには、クラブ活動が良かろう。こんなことから水泳部に入ったのであって、実はどのクラブでも僕にとって、余り差異はなかったように思う。

ところが一年生の時には、四月～九月まで生活というものが水泳についての事でつながれていた。授業のあいている時はとにかく水の中で、無思考的に手足をチャプチャプやっていたものだ。僕をそのようにさせたのは、人に追いつき勝ちたいという競争心旺盛な僕の性質を反映した動物的感情であった。そんなことで僕の生活は動かされ孤独感はもちろん全然感じなかった。友人も出来た。それが僕にとって良く考えると一番の収穫であった。

二年生も中ばを過ぎた今、人間的成長に伴って、自分が大学生として青年としてどうしてもしておかなくては、後悔するであろう事が有るように思われ出した。勉強、スポーツ、恋、趣味すべてやりたい。おそかれ早かれ僕だけでなくて、大多数の人がそのように感じると思う。そんな時、クラブ活動に参加すると時間的制約を受けると、肉体的に続かないといい、自分の目的とするクラブ体制になってないと批判し、そして他のクラブの方が自分を引きつけるといって、クラブを去った人達がいた。僕は少なからず考えさせられ、正直言って動揺もした。しかし、僕自身少くとも現在では、旺盛な志向に対して、クラブ活動が時間的に障害とは成ってないし、障害となっていたならば、自分が望んでそのようにしたいと思っている。本質ずでは、分らないが、様々の人とも付き合えたし、水泳部に入っていなかったら出来なかったであろうと思われることも出来たと思っている。「クラブの意義」なる

もの僕には正直いってはっきりとは分っていない。しかし、そのことを意識として、感じ、それを考えようとしたことだけでも、僕にとって有意義だったと思う。

たった二年間のクラブ生活ではっきりとつかみ得なかったことを来シーズンは、自称「水泳に徹する男」は、少しでも速く泳げることを当面の第一目標とし、練習課程の中でじっくり考えて行こうと思っている。

俺と水泳（Ⅱ）

芳川雄二

俺は今、水泳部に入部している。今年はもうシーズンが終った。あの五月の冷たい水、あの頃はいつになったらシーズンが終るのだろうかと指をおって数えたものである。長かった一日、短かかったシーズン。ふりかえってみると夏中水泳本位の生活で他に何も思い浮ばない。

ある奴は、もっと充実した生活……というけれど、それは好きなことを何でもかんでもやって多様にわたって経験しエンジョイすることをさすようであるが、これは一見なるほどと思えるけれども、いざ実際、みずから進んで実行してみると、思いがけないことが起る。俺はそれほど万能ではない人だと身を持って感ずる。一つのことも十分にやれないのだ。水泳オンリーに精だしていたら他の生活は犠牲にされる。好きなことはやれないだろう。だけどそれはやらぬ前の夢にすぎない。何事も、一つ一つやって行かなければ、実際何一つできるものではない。これが水泳に対する俺の気持である。

ZATSUDAN

P一九　海道　一

温水プール、冬も泳げるプール、古林先生ではないが、私もそれが欲しい。毎日でなくても、週に二日ぐらい泳げるプール、やはり欲しいな。

女子部員、今年、一名、女子の入部希望者があった。マネージャーの井上与志男さん、ええかっこして、ダメだとことわった。男女同権二十余年、我の年よりも多い。この際女子の水泳部員を作って、ナゴヤカなフンイキにしたら、セパレーツやビキニなど着てもらって、眼の保養をしたらどう？　興奮して泳げないかな？　それとも大記録が出るかも、カタイこと言わないで、どうですか？

プール、神戸大にそんなもんあった？水泳部、へえ神大にも、そんなんあるん、と聞く、アホの多いこと、井上さん、一つプー

ルの附近の地図を書いて、ビキニ又はヌードの女（近ごろ男性ヌードなるものがはやっているそうであるから）の写真をはった、カンバンをつくり、朱色の字の立てかんばんの横に置いたら、カッコイイ！　水泳部のセンスも見なおされる。

かっぱ焼き、毎年大学祭のメインエベント園遊会で好評をはくしているのに、なぜもうからないの？　先輩以外の固定客だってつかんでいるのになあ。カッパの皿の水がかわいて、ドンブリならぬ皿かんじょの経営の失敗か、反省しろ。

コンパ、今年のコンパあまり酔わない。去年のつらい思いを二度と味わいたくないので飲まないためか、強くなったからか。でもあいもかわらずよく飲み、酔うやつもいる。なあ得丸、小林そうだろう。

クラブ員、一年生、残るは二人、やめんといて、二年生、よくつづいたね。来年もやろう。三年生、よくあきないわね。四年生半分まだ大学でがんばろう。半分就職きまってよかったね。やとった会社、大丈夫。とにかくがんばってね。

合宿、クルシイ！クルシイ！まだ泳ぐの？助けて、しごかんといて。しごく割りに強くならんね。やっぱり素質がないのかね。合宿、それは、練習キビシ、メシマズシ、蚊多シ、鬼の主将の声「当然合宿はヤルゼ」とくらあ。

プールを美しくする運動をおこそうではないか。当然プール内禁煙、先輩、現役をとわずまもろうではないか。現役は全面的に禁煙するべきである。誰だ、それだけはやめてって言ってるやつは、とにかくプールを美しくしたいものである。

なぜ水泳部員、こうも、もてないのか、中には非常に感んなのもいるが、主将サンなんとかしろ。いや、してチョウダイ。

「モテないのは、おまえだけだろう」だって一言える、確かに言える」、でもこの私をなんとかしてチョウダイ。

試合、練習中は非常に強い。試合ダメ、体調悪し。自分のベストが出ない。根性がないからか。練習不足からか、とにかく、いやな事である。

六甲台の夏　一九六八

T一九二〇四　末光英和

五月、プールの改築がなかなかできず、田崎真珠のプールで、吹きさらしの風の中冷たい水で身も心もしびれながら泳ぎ、大学祭の園遊会、入りたての水の中死ぬかと思いつつ、まき足・ランパス・ピーピーダッシュ。

六月、対京大ポロ、関西ポロリーグと続くポロの為、先輩がたは、毎日のように六甲台まで足を運ばれポロの技術を教えてくれたり臨役部員をしごいたり、でも、その試合も延期なり気の抜けたところで強化練習、合宿でも悲しいかな一年生が次々と消え六

甲台も活気のない夏を向えることとなりまず関西国公立戦、意外も意外京大をふって勇躍全国々公立戦出場権を得る。でもやっぱり一年生が二人では寂しい。

いろいろあった今シーズン、今治合宿では、乱れっぱなし、セシボンのマキちゃんとか、みかどのかすみちゃん、みんなさよならら今シーズンは終ちゃった。水泳の季節が終り恋の季節が来たんだよ。なんだか淋しい秋の空、子供の頃を思い出させるかあちゃんの顔の入道雲、若さではちきれそうな真赤に燃えた太陽。夜明けのコーヒー二人で飲みたいそんな気がする六甲山、どうすりゃいいんだ思案橋。六甲道から三宮二人で歩いた元町通り、夢は広がり心は沈む。ほっぺたつねると期末考査、水泳のことも忘れさり一生懸命机に向かう善良な学生のぼく。悔いの残る、でもいろいろ考えさせられた今シーズン、不毛に終るかもしれない今シーズン、やっぱり水泳水泳水泳オンリー喜こびも悩みもやっぱり水泳の一九六八年の夏、来年はどうなることやら。

—了—

雑感

B一九一四九　坂元正広

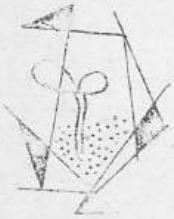
紅葉の目立つ季節になった。毎年のことながら、一種異様な沈んだ気分になる。いや、何物からか解放された安堵感、急に忙しさから抜け出た時の虚脱感とでも言うべきだろうか。ただ今年は、「条件付進学」などというイヤーなものがある和。

よくサボリもしたが、しかしやはりよくやったとも思う。春のあの水の冷たさ、高校二のあの合宿の厳しさ、キーパーをやっていて自分のミスで点を与えた時のあのやるせなさ。逃げ出そうと思ったことも一度や二度ではない。前は、今シーズンが終ったらやめようと思っていたのだが、いざとなると出来ないものだ。児島はやめた。偉いと思う。その点では。だが、今の二年で文科系は、大橋とオレだけ。何か責任のようなものを感ずる。それ以上に、もう少し記録を伸ばしてからという野心もある。だが不安もある。日頃の勉強の積み重ね。目立たないが、それが恐い。

しかし、あの練習に耐えたということが、自信のようなものになって自分を支えていることも確かだ。

ああ、来年もまたあの苦しさを味わうのか。

やるからには本気になってやろう。



盲腸

S19 堂出茂良

今や日本は能力主義時代である。能力のあるものはどんどん重要な地位につく。反面、一度でもしくじると減俸、格下げである。いわば真剣勝負のような緊張した満足感にひたっている。これでこそと男を気どっている奴もいる。しかしここに悲劇が生じた。

悲劇の主人公は今霊柩車に乗せられて焼場へと向っている。なぜか？睡　薬を腹一杯食ったからである。どうして？飢えていたからである。人間愛あふれる社会に。

三年前、大学を卒業した彼はある会社に入社した。希望に燃えていた彼は積極的に仕事をした。いやしょうとした。結果は今の彼の姿を見ればわかる。彼は能なしと言われた。足手まといだとも言われた。果てには、彼の存在が社会の損失をまねくとまで言われた。能力主義を生きぬくには、政治的手腕、むずかしい専門知識、たくみな弁舌等のどれか一つあればいい。円満な人間性など余分である。彼には何もない。ただあきれるばかりに人がいい。こんな人間もまだ昭和四五年頃までは、何とかその価値が認められていた。しかも今や社会、人間の住むべき社会をよくするためにすべてのものがあるのではなくて、社会組織、秩序を維持運営していくために人間が必要となっている。否、必要なのは人間でなくして、人間の能力である。社会は能力のない彼を必要としない。それで彼は「社会の為だ」と思って自殺しかけたことが前にある。死にそこなった彼のところへ牧師が来て言った。

「どうして社会が必要とするまで努力しないんです。死ぬのは卑怯です。生きなければなりません。神様からいただいた命は大切にしなければいけません。」

「私は神様にお願いして命を頂いたおぼえはありません。私はあなたがたの言う『生きているかぎり歩かねばならぬ』という言葉に従って歩くべき道もないのに必死に歩いてきました。そして傷つき疲れて歩けなくなった私に慰さめのことばもかけずに、まだ歩け、歩けとせき立てるのですか。そんなに人が苦しんでいるのを見たいんですか。あなた方の言う神様とは悪魔と大差ないじゃないですか。これ以上私に歩かせるのは残酷です。」

牧師は神を冒瀆したと言って怒って帰った。彼の両親は言葉もなく泣いた。それから三ケ月後である。彼が焼場へ運ばれたのは。

「おい、奴が自殺したんだそうだな。」

「えゝ？ああ彼か。なんでも頭が変だったって話だぜ。どうして生きているんだろうってさかんに不思議がってたそうだ。」

雑感

E1 山田実男

僕が水泳部に入ったのは入学してすぐだった。プールは工事中でまだ泳いでなかった。陸トレから始まった練習は、かなりきびしく、一週間くらいは体が動かなかった、だけど運動して疲れるのは快よかった。

始めて泳いだのは、ホリデーインの温水プール、楽しかった。それから山代合宿、シンドかった。合宿から帰ると田崎パールのあの冷い水の中、さすがのキャプテンも泳ぎつらそうな顔してた冷たかった。

プールが完成してからの練習はきびしかった。毎日プールへかよった。冷い水の中で、ボロとロング、シンドかった。

一年がやめたのはこの頃である。今はオレと井上しかいない。オレも一緒にやめたかった。

合宿と試合が交互に始まった。関西国公立戦は最初の試合でもあり、一番気憶に残っている試合だ。大阪ナンバの駅へ集合、電車で府大プールへ、着くと他校の選手でいっぱいだった。試合らしい気分がした。京大の不調も幸いして、二位。さすがに興奮した。スポーツの持つ喜びを味わえたような気がした。

今考えてみると、苦しかったが、割りと楽しかった。

―終り―

一九七〇年の水泳練習

岩切　博

陽の当らない家。白アリが、もぞもぞとうごめく。土台は穴だらけ。土色の柱。さわると、ぼそっとくずれる。瓦は実に立派だ光り輝やいている。が、雨もりがひどい。雨がふるたびに傾いて行く。老朽化した家。もはや人が住むに耐えきれない。それなのにこの家にしがみつく老人達。一つの部屋に電燈が五つも六つもついている。家の中に招かれた者は、何と立派な部屋かと思う。一歩も外に出ない老人達も、これほど良い所は無いと思う。白アリが、ごそごそとうごめく。

陽の当る家。白壁の家。立派な造り。堂々とした門。広々とした庭。しかし、深閑としている。人の気配もない。中に入ってみる。一人の老人が、石のかけらをいじくっている。人が入って来たのにも気がつかない。部屋の中には電燈が一つ。大きな机がある。引き出しには、古新聞がつまっている。天井まである本箱がぐるりと取り巻いている。本がぎっしりつまっている。が、ケースだけだ。顕微鏡には、レンズがない。陽がかげって来た。

はげ頭の老人は、動こうとしない。暗くなったので、スイッチをひねった。電燈はつかない。老人はまた動こうとしない。石のかけらをいじくっている。

小さな家。親分が一人住む。子供達は、次々に入り、次々に出て来る。親分は入って来た子供にあめ玉を与え、出て行こうとする者をなぐりつける。それでも出て行く。親分は一人で荒れている。子供達は気にしない。親分は、昔はこうじゃなかったと思う。子供達は気にしない。

水の家、水の主が一人住む。近くを通る者の足をつかまえて、ひきずり込む。必死でのがれようとする。もう一人通る。他方の手をのばす。さらに一人通る。これもつかまえようとする。しかし、なかなかひきずり込めない。大勢やって来た。水の主は、どうしようもない。頭にくる。水をひっかきまわす。すでにつかまった者は知らん顔。水の主、やけになって、外に飛び出す。水の主　曰く「今日は、ボロの特訓をやる。石を一ぱい袋につめ込み三宮に集合。基地と機動隊をゴールと思い、シュートの練習。そして足を強くするために押し合いをやる。サア、ガンバッテヤロウ！」と。

山代合宿

山田実男

四月二十八日、午前八時大阪駅集合、九時出発、私が経験する初めての合宿であった。運動部の合宿を知らない私は、修学旅行へでも行くような気分で前夜はよく　れない程であった。汽車にゆられて山代へ、北陸への旅はこれ又、初めての経験である。車中のゲームや雑談、私の思った通りの旅行気分であった。

山代へ着くとすぐに練習、ここで私の期待は裏切られた。今から考えれば、わずかな量だったが、あの当時の私にとって千米は長すぎた。このわずかな練習ですでにダウン、後の練習は疲労が蓄積する一方で、まさに悪夢であった。朝食前、午前中、午後、夜間の練習、内容はロングとボロである。日誌のどの頁を見ても"シンドイ"、"疲れた"という語が多く見られた。

この合宿ではギャンブルをよくやった。ギャンブル好きな一年はよくやっては負けていたようだ。

一年と言うと、あの頃は多かった。寒さに震えながら泳いでいた酒井、私のよきライバルだった。駿馬好きの近井、それに田中にかじ、皆おもろい連中だった。

それから先輩とやっとなじめた、とくに合宿前は顔と名前がハツ

キリしなかったがこの合宿でやっとわかった。

五月〇日、いよいよ苦しかった合宿も最終日を迎えた。最後のリレーではK氏が私達の中にいたせいか、私が早かったせいかは知らないが私達のグループが一位だった。昼食を取って午后一時現地解散。

第二次合宿　六月十七日～二十日

シーズンも本格的になって来た六月の中頃、六甲台プールで合宿が行なわれた。合宿所の関係で日程が十分とれず、その前五日間の強化練習を消化しての合宿であった。一年が大量にやめて行ったのもこの頃であり、二、三年に深い傷を負わせたのであった。又、部員に理科系が多く実験のために合宿から抜け、数少い人員で練習を行ない、盛り上がりのない合宿でもあった。この点部員一同深く反省し、十分な対策をたてないと、将来　恨を残すことなろう。

第四九回対市大戦

文　責　芳　川

確か去年は、雨のふりしきる中を、市大のあの大きな、広い、清い水の五十米プールで行なわれたと思う。それは神戸が集中豪雨で非常な災害があった日だったのである。あのとき、水泳てこんなひどい雨でもやるのかと驚いた程だった。もうあれから一年たった。我が水泳部もプールを改装し、あのグリーンがかったきたない水から解放され、クイックターンもできるようなプールで向えた。そして今年は去年とうって変って、晴天にめぐまれて試合が開始された。競泳、水球両部門に勝った。だがバタフライフリー陣の弱さが認められた。

市　大　戦　7月7日　六甲台プール

競　泳

400m混合泳	神戸大（木村，鈴木，玉置，明）	2位　4分58秒5
400m自由形	大藤，以西）	1位　5分28秒7
	小林春夫	4位　6分00秒0
	井上史朗	5位　6分02秒5
	鈴木俊彦	2位　2分54秒8
200m平泳	柴田修三	3位　2分58秒8
	岩切　博	4位　3分03秒0
200mバタフライ	大藤　進	1位　2分54秒8
	末光英和	3位　8分09秒1
	龍岡福二	4位　3分16秒1
200m背泳	木村多加能	1位　2分37秒8（大会新）

	玉木喜代明	2位	2分47秒0（大会新）
100m自由形	木村多加緒	2位	1分04秒6
	以西吉一	3位	1分07秒6
	井上史朗	4位	1分10秒7
800m自由形	玉置　明	1位	11分20秒0
	小林育夫	4位	12分51秒2
	得丸哲士	5位	12分54秒3
200m個混泳	鈴木俊彦	1位	2分45秒0（大会新）
	熊岡禎二	2位	2分51秒5
	岩切　博	4位	3分04秒5
800m継泳	神戸大（木村、玉置以西、大橋）		10分11秒8

得点　1位　神戸大　93

2位　市大　70

水球

神戸大　21 ―――― 0　市大

関西国公立

六月二九、三十日今年初めての公式戦が府大プールで行なわれた。キャプテンをはじめ真剣な気持で試合にのぞんだが第一回を終った所で、府大に次ぎ京大を抜いて第二位、こいつは面白かいけると色気が出て来て明日のためにギョウザを食いに行った。そのために第二日はさらに差をあけ、最後のリレーを待たずして第二位、全国々公立出場が確定した。他大学の者は皆びっくり。本人もびっくり。

関西国公立　6月29、30日

400m混継泳	神戸大	4位	4分57秒0
800m自由形	玉置　明	2位	11分16秒7
100m平泳	鈴木俊彦	2位	1分19秒1
	菊田修三	7位	1分21秒0
100m背泳	木村多加緒	1位	1分13秒0（大会新）
	玉木喜代明	5位	1分16秒7
400m継泳	神戸大（以西、玉置、熊岡、木村）	6位	4分32秒6
200m個混泳	熊岡禎二	5位	2分54秒6
200m平泳	鈴木俊彦	1位	2分51秒4
	菊田修三	7位	3分01秒0
400m自由形	玉置　明	4位	5分25秒3

200mバタフライ	大藤　進	9位	3分07秒3
200m背泳	木村参加辞	1位	2分38秒9（大会新）
	玉木喜代明	5位	2分49秒3
800m競泳	神戸大	5位	10分22秒9
	得点	1位	神戸大　81点
		2位	神戸大　45点

全国国公立出場権をえる。

第三次合宿　三商大戦

大橋　進

対京大ボロ部の勝利の後、七月二十三日より、三商大戦の為の合宿に、はいった。が、実習等の理由から、参加者は、少なかった。毎日、午前中は、競泳の練習、午后は、ボロの練習とわけ、三商大戦の完全優勝を目ざした。ボロはともかく競泳は絶対に勝てるという自信が、クラブ員全員にあった。

二十八日、台風をついて試合を決行、三商大戦に於いて、史上初の台風下の試合が始まろうとしているのに、我、神戸大の切り札の四年生のS氏が、まだ来ない。（合宿不参加）四〇〇米混泳のオーダーを出そうとした時すべりこみセーフと、とにかく試合は始まった。

競泳では、リレー二種目、自由形三種目、個混泳の計六種目を、一橋大にトップをとられはしたが、本年度、関西国公立二位、全国国公立の出場権を得た実力？と層の厚さ？で一橋大、市大に軽く勝った。来年度も競泳では、神戸大が、優位を保つだろう。一橋大の強いフリー陣（二名のみ）が、来年度は、おそらく半減するだろうから。

午后のボロでは、今年もまた、一橋大に負けた。彼らは試合なれしている。来年こそ勝つと、玉置主将以下、全部員が思っている。努力しようと考えている。（と思う）

記録は次の通り、

旧三商大戦　7月28日

競泳

400mメドレーリレー	神戸大（木村、鈴木、熊岡、上西）	2位	4分53秒8
	一橋大	1位	4分49秒25
800m自由形	玉置　明	2位	11分05秒4
	大藤　進	3位	11分34秒9
（一橋大）	井上幾人男	1位	10分59秒0
200m平泳	鈴木俊彦	1位	2分52秒6
	菊田修三	2位	2分55秒6
200m個人メドレー	熊岡武二	2位	2分53秒3
	鈴木俊彦	4位	3分00秒7

（一橋大）	保松久雄	1位	2分42秒8
200m背泳	木村多加緒	1位	2分37秒2（大会新）
	玉木喜代明	3位	2分44秒3
400m自由形	玉置　明	2位	5分19秒8
	小林育夫	6位	5分55秒0
（一橋大）	井上繁久男	1位	5分04秒8
100m自由形	木村多加緒	2位	1分05秒2
	以西吉一	3位	1分06秒3
（一橋大）	保松久雄	1位	1分01秒8
200mバタフライ	大橋　進	1位	2分53秒2
	末光英和	5位	3分15秒5
800m総泳	神戸大学（玉置、以西、大橋、木村）	2位	10分18秒7
	一橋大	1位	10分06秒0
	得点	1位 神戸大	72点
		2位 一橋大	67点
		3位 市大	39点
水球	一橋大 8	0	神戸大
	市大 1	10	神戸大
	市大 0	14	一橋大

全国国公立大学水泳選手権大会

S四三年八月九・十・十一日　大阪体大プール

三一九一七八　小林育夫

台風の影響で風の強い日や、天気の悪い日があって、コンディションは悪かったのであろうが、とにかく神大水泳チームの大望である全国大会である。クラブの部員皆大張切りで試合に望んだ。八年振りかで出場できるということで、もちろん試合結果をおるはずもない。

関東はレベルが高いと聞いていたのか、それをさのおたりに見た感じで、さすがに全国大会という感じがした。

神大チームも続々と入賞者が出て遂に総合五位に食いこんだ。リレーの際に少々のミスはあったが、とにかく全員良く頑張った。

結果次の通り（決勝記録のみ）

200mブレスト	鈴木	3位	2分53秒2
200mバック	木村	2位	2分38秒5
	玉木	6位	2分50秒5
200mバタフライ	大橋	9位	2分56秒8
1500mフリー	玉置	6位	22分04秒0
400mフリー	玉置	7位	5分33秒9

100mブレスト	鈴木	3位	1分18秒6
100mバック	木村	3位	1分13秒9
400mメドレーリレー	（木村、鈴木、大橋、以西）	7位	5分03秒8
400mリレー	（鈴木、岩切、菊田、小林）	9位	4分53秒6
800mリレー	（失格）		

総合得点	1位	東大	75点
	2位	東教大	68
	3位	大府大	54
	4位	東京商船大	33
	5位	神大	19
	6位	熊本大	13

（他、岐阜大、名大、九大）

全国国公立

100m平泳	鈴木俊彦	3位	1分18秒6
200m平泳	〃	3位	2分53秒2
100m背泳	木村多加緒	3位	1分13秒9
200m背泳	〃	2位	2分38秒5
	玉木喜代明	6位	2分50秒5
200m蝶泳	大橋　進	9位	2分56秒8
1500m自由形	玉置　明	6位	22分04秒0
400mメドレーリレー	神戸大（木村、鈴木、大橋、玉置）	7位	5分03秒8
400mリレー	神戸大（鈴木、菊田、岩切、小林）	9位	4分53秒6
800mリレー	神戸大	失格	

得点	1位	東大	75
	2位	東教大	68
	3位	府大	54
	4位	東京商船大	33
	5位	神戸大	19

ポロリーグ戦

八月二十五日　於　府大プール

S19　玉木喜代明

六月にある予定であったこの試合が八月の末にまで延期され、なんとなく間の抜けたような感じで迎えた。それに加えて、当日府大へ行ってみると、なんと京大も出場せず。市大は前から出場の気力をなくしていたので、致し方なしとしても、ついに出場校は、立命と我神戸大の二校となってしまった。折角来たのに、という落胆の声に混じって、ヤレヤレという声も、チラホラ、チラホラ、立命の先輩十数名の声が、夏の終りの嶺の如く、風に響し

く、流れたことであるよ。

結果は次のごとし

立命　16　　5　神戸

今治合宿

B一九一四九　坂元正広

八月十八日から二十二日まで、今治で今季二度目の遠征合宿が行われた。

費用はかかるし、自宅にいられる期間は短くなるしと、行く前はそんな計画をたてた上級生を恨んだものだ。しかし、本州から今治への船中では、瀬戸内海の美しさに心を魅かれ、すっかりいい気分になっていた。幸か不幸か、プールの都合で練習は早朝しか行われなかった。

練習は専らポロ。

玉と石が入り混じっての練習は、日頃あまり機会がないだけに、技術を学ぶという点でも、チームワークを良くするという点でも意義があったと思う。しかし、早朝練習後の時間の使い方は反省の余地があると思う。この合宿は初めから、親睦を深めるのが目的だったとはいえ、長い自由時間を、三々五々パチンコや映画へ行ってつぶしていたのは、失敗だったと思う。

もっと、皆で一緒に遊ぶ時間や、話合う時間があっても良かったのではないだろうか。今回のを参考にして、この次の機会を、より有効に生かしたいと思う。

とは言え、瀬戸内海の素晴らしい眺めや、あんなに水のきれいな海で皆と一緒に泳いだことは、きっとよい思い出になるだろう。

末筆ではありますが、この遠泳誌上を借りまして、今回の今治合宿に多大な援助をして下さいました中村市治先輩に、水泳部員一同心からお礼申し上げます。

京阪神三大学ジュニアー戦

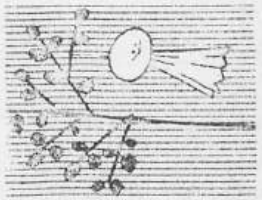
九月二日　於　神戸大学

1年　井上安

前日の大阪プールでの京阪神三大学戦に引き続き、例によって、今年は神戸大学のプールで行われた。九月八日に予定されていた兵庫インカレの不出場を決めたので、一応これで今年のシーズンは幕を閉じることになる。

この日は、平常試合に出る機会の少ない者も多く泳ぎ、自己のベストを書換えた者もあったようだった。結局三十人近くを動員した大阪大学が神戸大学に一点差で優勝し、京都大学は昨日に較べて人数も得点も少なかった。

４００ｍメドレーリレー	神戸大	１位	５分３４秒５
４００ｍ自由型	玉　木	２位	５分５２秒４
８００ｍ自由型	岩　切	３位	１２分２８秒３
２００ｍ自由型	井　上(圭)	３位	２分５１秒７
１００ｍ背泳	栄　田	１位	１分２４秒４
１００ｍ平泳	大　橋	１位	１分２４秒７
	児　島	２位	１分２６秒７
１００ｍバタフライ	岩　切	２位	１分２１秒１
２００ｍ平泳	坂　元	１位	３分０２秒５
	児　島	２位	３分１５秒６
２００ｍリレー	神戸大	１位	２分０８秒１
２００ｍ個人メドレー	小　林	３位	３分１０秒８
	玉　木	２位	２分５７秒８



個人ベストタイム表

1968年度

種目	学年	氏名	50m	100m	200m	400m	800m
Free	4	前田	30−2	1−11−9	2−46−0	5−59−0	
	3	玉置	29−4	1−06−7	2−27−4	5−14−7	11−00−4
	3	以西	28−6	1−05−4	2−38−5	5−51−2	12−14−4
	3	井上(史)	30−2	1−10−2	2−41−0		
	3	井上(与)	34−2	1−19−8	3−05−0		
	3	菱田					
	2	小林	30−0	1−07−9	2−36−2	5−50−2	12−27−0
	2	芳川	34−3	1−20−8	3−11−2	6−47−3	13−59−0
	2	大橋		1−10−1	2−36−5	5−37−7	11−34−9
	2	得丸					
	1	井上(圭)	31−4	1−12−8	2−47−6	6−18−2	12−48−6
Brest	4	鈴木		1−17−5	2−45−5		
	4	木内		1−23−8			
	3	菊田	36−8	1−20−4	2−55−6		
	2	坂元	36−9	1−22−3	3−01−4		
	2	岩切		1−23−0	3−00−5	6−27−0	
Butt,	4	熊岡	32−0	1−15−9	Free 個メ 2−40−3	2−51−5	6−23−7
	2	末光	33−4	1−18−0	3−08−2		
	2	大橋	31−5	1−10−2	2−48−1	6−22−4	
	1	山田	38−2	1−35−1	3−57−0		
Back	3	木村	33−7	1−12−7	2−34−8	5−35−4	11−40−2
	2	玉木	35−4	1−15−5	2−43−6	5−52−3	個メ 2−57−8

昭和四三年度

凌泳会総会議題

一、四十二年度一般経過報告

二、四十二年度会計報告並びに四十三年度予算審議

（別頁参照）

三、幹事交替の件

昭和三十八年より五年間にわたり凌泳会幹事として格別の御尽力を賜りました新五回岡田昌三氏（旧姓名島居正光氏）が御都合により辞意を示されており、その後任として新十回の萩原武氏と同岡田重蔭氏の御両人を推薦されております。なお、両氏には、凌泳会の幹事と併せて現役部員の競泳並びに水球のコーチをお願いすることになっております。

四、四十二年度戦績報告並びに四十三年度試合予定

五、四十三年度現役役員並びに部員紹介

以上出席者全員並びに委任状により全事項承認されました。

昭和42年度

会　計　報　告　No. 1

菱泳会・収入の部

前年度繰越	3,170	
菱泳会費	117,000	一人数?
寄付金	26,500	一人数?
合計	146,670	

支出の部

水泳部援助	91,265	
菱泳発行費	26,600	
会合費	2,130	
交通費	7,250	
通信費	17,275	
雑費	2,150	次期繰越はないか
合計	146,670	

会　計　報　告　No. 2

昭和４２年度

水泳部・収入の部

1	前年度繰越	2,664	
2	部費	80,400	（第一銀行プールアルバイト分）
3	後援会援助	91,265	
4	合宿費	160,900	（山代合宿109,500　第二次合宿42,400　三商大戦9,000）
5	育友会援助	41,300	
6	会合費	46,800	（新入生歓迎コンパ7,000　月見の宴20,200　忘年会19,600）
7	雑収入	43,814	（園遊会模擬店7,270　ダンスパーティ30,823　近体交通費5,720）
	合計	467,143	

支出の部

1	水連登録料	9,000	
2	試合費	16,700	（6月ボロリーグ5,200　7月関西国公立6,500　8月全国国公立5,000）
3	合宿費	218,500	（山代116,500　第二次83,600　三商大18,000）
4	会合費	88,840	（新入生歓迎コンパ及び京大ボロミーティング48,990　月見の宴23,850　忘年会27,000）
5	交通通信費	12,212	
6	燃料費	3,500	
7	医薬品費	4,850	
8	設備費	9,125	
9	消耗品費	3,270	
10	練習費	3,000	
11	雑費	1,500	
12	浄水装置積立金	80,000	
13	次期繰越	16,596	
	合計	467,143	

浄水装置積立金あり之は？

会　計　報　告　No. 3

昭和43年度予算

菱泳会 収入の部		
1 菱泳会費	150,000	129,000
2 寄附金	50,000 (+	13,500
合計	200,000	142,500

支出の部		
1 菱泳発行費	34,000	54,565
2 水泳部援助	117,000	32,760
3 会合費	10,000	17,370
4 交通費	20000	14,280
5 通信費	17,000	21,150.
6 雑費	2,000 (+	2,375.-
合計	200,000	142,500.-

会　計　報　告　No. 4

昭和43年度予算

水　泳　部　収入の部

1	前期繰りとし	16,596	16,596
2	部費	36,000	48,300
3	凌泳会援助	117,000	54,565
4	合宿費	250,000	224,150
5	青友会援助	42,000	36,150
6	会合費	50,000 (+	35,000 9,750 加入
	合計	511,596	

支出の部

1	水連加盟費	10,000	11,200
2	試合費	20,000	23,500
3	合宿費	280,000	213,970
4	会合費	80,000	45,930
5	交通通信費	13,000	25,755
6	燃料費	3,000	5,400
7	医薬品費	5,000	8,720
8	消耗品費	3,000	~~9,100~~ 5,660
9	練習費	3,000	~~5,450~~ 15,200
10	雑費	2,000	2,530
11	設備費	85,000	9,100
12	次期繰りとし	7,596 (+	9,696
	合計	511,596	

菱泳会会則

第一章　総　　員

第一条（名称）　本会は菱泳会と称する。

第二条（事務所）　本会は事務所を神戸市生田区相生町一丁目八の一　岡田ビルに置く。

第三条（目的）　本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四条（事業）　本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会報及び名簿の発行　会誌「菱泳」

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の為の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要なる事項

第五条（会則の改廃）本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

第二章　会　　員

第六条（会員）　本会の会員を分けて正会員、特別会員及び在学会員とする。

第七条（正会員）　正会員とは次のものを云う。

国立神戸高等商業学校　国立神戸商業大学　神戸経済大学　神戸大学

以上の諸学校に於て、在学中水泳部に所属したもの。

第八条（特別会員）特別会員とは次のものを云う。

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者

二、その他総会の決議によって推薦した者。

専門部を入れる？

第九条（在学会員）在学会員とは次のものを云う。

現在、神戸大学学生で水泳部に所属する者

第十条（会費）正会員は会費として年額一五〇〇円を当会へ納入する。

第三章　役員

第十一条（役員）本会には左記の役員を置く。

会長　一名
副会長　一名
幹事長　一名
本部幹事　若干名
支部幹事　若干名
会計幹事　二名以内

第十二条（改選）役員の改選は総会の決議によって行う。

第十三条（任期）役員の任期は一年とし再選を妨げない。

第十四条（会長）会長は本会を代表し且統轄する。

第十五条（副会長）副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六条（幹事長及び本部幹事）幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第十七条（支部幹事）支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第十八条（会計幹事）会計幹事は会計の監査に当る。

第十九条（役員会）会長、幹事長、本部幹事を以て、役員会を組織し、役員の決議に従い会務の運営に当る。

第二十条（招集）役員会は会長これを招集する。

第四章　総会

第二十一条（招集）総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以て会長これを招集する。

第二十二条（時期）　総会は毎年春秋の二回とし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第二十三条（議決）　総会の決議は出席会員の過半数を以て決する。

但し、当該議事につき、書面を以てあらかじめ意志を表示したものは出席とみなす。

第五章　会　計

第二十四条（経理）　本会の経理は、会費、寄附金及びその他の収入によって賄う。

第二十五条（決算）　本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告し、その承認を受ける。

第二十六条（期間）　本会の会計年度は毎年四月一日より三月三十一日までとする。

第六章　雑　則

第二十七条　本会則は昭和三十九年五月十六日より発効する。

以　上

役員紹介

本会の本部及び地方支部の役員が次の通り決定しておりますので紹介します。

会長	古林喜楽		
副会長	小山賢之助		
幹事長	岡本忠男		
幹事	石井義章	萩原武	岡田重義
会計幹事	山田常雄	宇賀史郎	北川
関東支部	小山賢之助	森美夫	
	永野一彦	浜川広海	
名古屋支部	鈴木啓介		
中国支部	古川雷美男		
四国支部	中村市治		
九州支部	印堂勝美		
関西支部			
京都	柳本正雄		
大阪	西岡良宏	佐藤一夫	
	武政英幸	鈴木正弥	
姫路	山口仁郎		

凌泳会会員名簿

総数 227人
内訳 特 7
一般 128
学 92

会費納入
111人 (49%)
3 (43)
52 (40.5)
56 (61)

編集後記

例年五月ないし六月に発行すべき凌泳がここ三年間、その発行時期を遅らせてしまい申し訳ありません。

四四年度はこれを是正すべく六月には発行するつもりで居ります。

なお四四年度号は、対市大戦五十回記念の特集号と致したく先輩諸兄からの数多の原稿を期待して居ります。

その節はよろしくお願い致します。

（井上記）

昭和四十三年十二月三十日　発行

発行所　神戸市灘区六甲台町
凌泳会
神戸大学水泳部

編集　神戸大学水泳部凌泳編集係

発行者　石井義章
井上与志男

印刷所　神戸市東灘区住吉町埴内三
小野印刷株式会社
電話（〇七八）
八五一〇六〇一